

エチオピアから考える、私たちのよりよい未来のこと

所属	岐阜県関市立下有知中学校	実践者	吉田 麻里子
対象	中学1年生	時間数	5時間
場所	体育館、教室	実践教科	社会科、総合的な学習の時間
ねらい	エチオピアと肯定的に出会い、日本との同一性に気づくことができる。また、エチオピアの抱える問題に気づき、私たちのよりよい未来を築くために大切なことを考えることができる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	アフリカ、エチオピアってどんなところ！？ ① アフリカといえば？ 知っていること、イメージを書き出す。その後全体で交流する。 ② エチオピアクイズ！ 場所、食べ物、言語、民族、宗教、就学率などについて、グループで相談し、クイズに答える。正解や解説を聞いたり、関連の動画を観たりする。 ③ 日本と似ているところ、違うところはどこだろう？ クイズや解説から気づいたことを対比表にまとめる。	・模造紙、ペン、三択クイズセット 現地で購入したもの ・ブレインストーミング ・クイズ（パワーポイント） ・対比表 ・現地で撮影した写真や動画
	2	エチオピアの人々の生活って！？ ① 自分にとっての生活に必要なもののランキング！ ② エチオピアの子どもたちはどんな生活をしている？ 与えられた写真がどのような写真なのか想像し、グループの仲間に伝える。写真の解説を聞き、実情を知る。 ③ 学校に行けないとどうなる？ 貧困の連鎖について考える。 ④ この貧困の連鎖を断ち切るためには？	・現地で撮影した写真（児童労働、学校、環境、井戸など） ・フォトランゲージ ・「貧困の連鎖」カード
	3	世界の中のアフリカって何だろう？ ① 世界の現状について知ろう！ A～Fまでのグループに分かれ「新・貿易ゲーム」を行う。 ② 活動を振り返ろう	・「新・貿易ゲーム」のセット
	4・5	私たちのよりよい未来のために・・・ ① 自然環境、産業、文化の特色について確認する ② アフリカのモノカルチャー経済の現状やアフリカの抱える課題を知る ③ 自分たちにできることって何だろう？	・教科書 ・前時までの資料
成果	生徒が「知らなかった国エチオピア」に関心をもつことができた。また、参加型の手法を用いることで生徒が意欲的に活動に参加することができた。活動を通して、途上国に対する思い込みがあることに気づき、自分たちの暮らしと関連づけ、自分にも何かできることがあるのではないかと考えることができた。		
課題	現地で多くの資料を手に入れることができたが、それらを教材化することについて工夫が必要だと感じた。限られた時数の中で、何を一番伝えたいか精選したい。		
備考			

[授業実践の詳細]

1 時限目「アフリカ、エチオピアってどんなところ？」

この時限のねらい

- ・クイズなどの活動を通して、アフリカ州やエチオピアと肯定的に出会い、日本との同一性に気づくことができる。

1 子どもの活動の流れ

- ① アフリカといえば?? 【グループによるブレインストーミング】
 - ・これまでの他地域の学習で知っているアフリカの歴史的背景や地理的な事象を思い返したり、アフリカに対してのイメージを考えたりして模造紙に書き出していく。
- ② エチオピアクイズ！
 - ・グループ対抗で 3 択クイズに挑戦する。クイズの答えをグループで話し合ったり、解説を聞いたり、動画を見たりしてエチオピアについての理解を深める。
- ③ 日本と似ているところ、違うところはどこだろう? 【対比表】
 - ・クイズや動画を見て気づいた、日本との違いや似ているところを対比表にまとめる。その後グループで交流する。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 導入のブレインストーミングで、生徒たちはアフリカに対する知識を想像以上にもっていることにまず驚いた。グループでのブレインストーミングを行うことで、たくさんの意見を出すことができた。その後の全体交流でも積極的に意見を発表する姿が見られた。
- ◇ クイズ形式にすることでとても興味をもって参加することができた。ブレインストーミングで出てきたこととは異なる、意外性のある内容をクイズにしたため、「え～！」という驚きを含んだ反応があった。
- ◇ クイズとその解説に使用した動画の中から、「日本と違うところ・似ているところ」を対比表にしたが、生徒たちはよく覚えており、日本との同一性に気づくことができた。また、エチオピアを否定したり、途上国ということで「かわいそう」という思いで見たりすることはなく、肯定的にエチオピアと出会うことができた。



日本と違うところ	日本と似ているところ
<ul style="list-style-type: none"> ・主食が「ちか」 ・黒人 ・手で食べる ・いろいろな民族がくらしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの人が小さい学校に行く ・いすと机がある ・コーヒーを飲む

＜日本と違うところ、似ているところの対比表＞

【生徒の振り返り】

- ・エチオピアは日本とけっこう離れているから、違うところばかりで日本と似ているところなんてないと思っていたけれど、けっこういっぱい似ているところがあってビックリした。先生の行った本当に先生が体験した話だったから楽しかった。
- ・エチオピアは、日本と同じようにトヨタの車を使っており、あまり学校に行っていないイメージだったけれど、93%の人が行っていたのでびっくりしました。主食がすっぱいのは、どんな味だろうと不思議に

思いました。

- ・先生が行ったエチオピアについていろいろ知ることができました。例えば、エチオピアは植民地にされていない、エチオピアの子どもたちは 93%小学校に入学している、トヨタ(の車)が人気など日本と似ているところがあって、何千kmも離れているのにそこに住んでいる人々の好み等が同じなんだなーと思ひ、すごいと思ひました。

3 使用した教材

- <教材1> エチオピアで撮影した写真、動画をもとに作成したクイズ(パワーポイント)
- <教材2> エチオピアで購入した飲み物やサッカーのユニフォーム、国旗など

2 時限目「エチオピアの人々の生活って!？」

この時限のねらい

- ・エチオピアやアフリカの国々の抱える課題を知り、その影響を考えることができる。
- ・あってもよい違いとあってはいけない違いを考えることができる。

1 子どもの活動の流れ

- ① 自分にとっての生活に必要なものランキング！
 - ・暮らしていくために欠かせないものをランキング形式でまとめる。その後グループでランキングとその理由を交流する。
- ② エチオピアの子どもたちはどんな生活をしている？【フォトランゲージ】
 - ・一人一枚、エチオピアの写真を受け取り、どんな写真なのか想像し、グループの仲間に発表する。その後、その写真がどんな写真であるかを知り、エチオピアの現状について理解する。
- ③ 学校に行けないとどうなる？
 - ・『貧困の連鎖』のカードの活動を行う。②の活動で知った、「学校に行かず働いている子どもがいる」という事実から、実際に貧困は連鎖するかカードを使って考える。
- ④ この貧困の連鎖を断ち切るためには？



<貧困の連鎖について考える>

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 自分に欠かせないものランキングで、多くの生徒が書いていたのは、水、食べ物、服、家、お金であった。
- ◇ 始めの活動で、生徒が「生活に欠かせないもの」として挙げた「水」が、普通に手に入れることができない現状を知り、衝撃を受けていた。
- ◇ エチオピアの持っている貧困という問題に触れることで、そこに生きる自分たちと同世代の子どもたちの生活を想像することができた。
- ◇ フォトランゲージで知った「学校に行けない」という事実から、学校に行けなかったらどんなことが起こるか、カードを使って考えた。考えていくうちに「学校に行けない」ことが「読み書きができない」ということにつながり、さらに「働くための技能・能力が身につか



<フォトランゲージで使用した写真>

い」→「収入の安定した仕事につけない」・・・とつながっていき、また最初の「学校に行けない」ということにつながることに気がついた。つまり、この負の連鎖が輪になることに気づいた生徒たちは、「・・・どうしたらいいんだろう。ずっと貧困から抜け出せないよ！」と、貧困から抜け出すための方法を真剣に考えていた。

【生徒の振り返り】

- ・保育園から小学校に上がり、中学校へ行くのは当たり前だと思っていたけど、途中から学校に行けなくなったり、最初から行けない人がいることを知ってびっくりした。また、家族や自分のために家の手伝いをしたり、お金をかせいだりして大変だと思った。自分が作った「生活に欠かせないもののランキング」の5つ(飲料水、食料、衣服、家、お金)は全てもっているものだけど、エチオピアなどでは、それが当たり前でないことがわかった。これから生活していくときに、一つひとつのものを大切にしたいと思った。
- ・貧困によって学校に行けない、学校に行けないことによって読み書きができない、それによって・・・というふうに貧困のループでどうしてもその層から脱することができないことがわかった。本当は学校に行きたくても、本当はもっと勉強したいと思っても、貧困によってそれができなくなるということを考え、そういう子たちには他の国や組織が、貧困の子の支援をしてあげればいいし、自分も将来そういう子の支援をしたいと思った。
- ・私たちの国、日本はとてもきれいで、発展しているけど、エチオピアは、水は手に入りにくいし、あまりきれいではないし、ましてや、学校に行かず、子どもが働くなって日本ではないことなのでびっくりしました。また日本は、学校はめんどくさいと思う人もいますが、エチオピアの人は行きたくても行けない子もたくさんいて、日本の恵まれた環境はとて有り難いことなんだと感じました。そして、日本人がボランティアしているのを見て、私も少しのことでもいいから、「関係ない」ではなく協力できるようにしたい。

3 使用した教材

<教材3> エチオピアで撮影した写真(児童労働、学校、共同で使う教科書、井戸など)

<教材4> 「貧困の連鎖」カード

3 時限目「世界の中のアフリカって何だろう」

この時限のねらい

- ・貿易ゲームを行うことを通して、世界の産業構造を理解し、アフリカの置かれた状況に気づくことができる。また、これからの世界をより良くするためにできることを考えることができる。

1 子どもの活動の流れ

① 世界の現状について知ろう！

- ・「新・貿易ゲーム」を行う。A～Fのグループ(活動では国と呼ぶ)に分かれ、ハサミや鉛筆、コンパスなどの道具と紙を使って製品を作り、それを売り収入を得る。はじめに渡される道具は、グループにより異なり、「道具」が多い国、「紙」が多い国などに分かれている。より多くの収入を得るために活動する。

② 活動を振り返ろう

- ・活動して気づいたことや困ったこと、考えたことなどを交流する。



<グループで貿易ゲーム>

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 貿易ゲームの始めは、渡されたモノだけでどうすれば良いのか考え込むグループも多く見られたが、やがて自然と他のグループと貿易を行うようになった。
- ◇ 活動の途中で、ハサミや鉛筆などの道具が「技術」を表し、紙が「資源」を表すことに気づく生徒も多くおり、自分のグループは日本だ、アメリカだ、アフリカの国だ、などと理解しながらゲームを行っていた。前時に学習した貧困の連鎖と、今回の「新・貿易ゲーム」とを関連付けながら活動を行う姿も見られた。

【生徒の振り返り】

- ・自分たちのグループは、与えられたものが紙しかなくてどうしようかと思った。他の国から道具を買おうとしたけど、値段が高すぎて買えなかった。だから収入がほとんどなかった。
- ・私たちは、道具も紙もない国だったけど、A国がタダでハサミをくれてうれしかった。おかげで商品が作れてお金が手に入った。
- ・始めは、紙しかなかったから何をしたらお金が手に入るかわからずに困った。これは、今まで勉強してきた発展途上国と同じで、資源だけあっても技術がなければものを作ることができないのがわかった。
- ・途中で、他の国と同盟を結んで、ハサミやコンパスを共同で使うようにした。実際の世界でも同じようなことが行われていると知って、なるほどと思った。

3 使用した教材

<教材4> 「新・貿易ゲーム」

4-5 時限目「私たちのよりよい未来のために・・・」

この時限のねらい

- ・アフリカの現状や抱えている問題を知ることを通して、自分たちにできることを考えることができる。

1 子どもの活動の流れ

- ① 自然環境、産業、文化の特色について確認する
 - ・自然環境、産業、文化の特色を復習し、白地図にまとめる。
- ② アフリカのモノカルチャー経済の現状やアフリカの抱える課題を知る
 - ・教科書にある、各国の輸出品や主な鉱産資源の産出国のグラフから現状を読み取り、その問題を考える。
 - ・調べた現状から、この要因をこれまで学習した地理的、社会的条件をもとに考える。
- ③ 自分たちにできることって何だろう？

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ エチオピアの場所をしっかりと覚えている生徒も多く、関連づけて他のアフリカの位置も興味をもって覚えようとする姿があった。
- ◇ 教科書の内容を学習する本時も、肯定的な見方をもって授業に参加することができていた。これは、それまでの活動があったからだったと思う。
- ◇ 限られた作物や資源の生産と輸出によって成り立つ経済、モノカルチャー経済の現状を学習したことで、今までの活動で知ったアフリカやエチオピアの現状とをつなげて考えることができた。

- ◇ 前時の「貿易ゲーム」を想起して、資源が豊富にある国の多いアフリカには技術が必要で、そのためには、先進国の支援も必要であると感じ取っていた。

【生徒の振り返り】

・(アフリカの抱える)問題を解決するために AU(アフリカ連合)を結成したり、非政府組織が援助したりしている。このアフリカ州の学習をして、資源や技術がない国は貧しくなってしまうと気づいた。だからそういう国を援助して貧困の連鎖を断ち切ることが大切だということがわかった。そのために、募金活動など自分ができることをしていきたい。

3 使用した教材

<教材5> 前時までの学習教材

■ 全体を通して

1 授業の様子



<第1時 エチオピアクイズの様子>



<第1時 アフリカについてのブレスト>



<第2時 フォトランゲージの様子>

2 参考文献・資料

- 1) 特定非営利活動法人 開発教育協会 『新・貿易ゲーム 経済のグローバル化を考える』 2014
- 2) JICA 『国際理解教育実践資料集—世界を知ろう！ 考えよう！—』 HP 上から PDF ダウンロード